

# 人間生活工学的視点から作業療法に切り込む～ヒトとモノとの関係性から～



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 リハビリテーション学科  
作業療法コース 講師  
**吉野 智佳子 Yoshino Chikako**



URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)

キーワード : 作業療法学・人間生活工学・リハビリテーション科学

## 研究の概要

SDGs 目標 3 : すべての人に健康と福祉を  
SDGs 目標 11 : 住み続けられるまちづくりを

作業療法の対象となる患者・利用者の方々は発症・受傷した疾患の治療を乗り越え、場合によっては障害が残存した中で日常生活を送ることになります。作業療法は、今までおこなっていた日常生活を介助されずにおこなう方法を提案していくという患者・利用者ファーストで進められる仕事といえます。提案する内容は麻痺した手の回復のための機能訓練から職場に行くための自動車運転の適応についてなど多岐に渡りますが、その中でヒトとモノがどのような関係性があるかという人間生活工学的視点がより重要となります。ありとあらゆる日常生活の一面を分析し作業療法でおこなう提案をより確かなものとするべく研究を進めております。

Figure1-3 ではペンでの把持の際に各指がどのような役割を果たしているか、感圧センサーを用いて紐解けないか実験しました。拇指・示指・中指が主に関与し、男女での違いとして女性の感圧が高くなっていました。この分析はFigure5 中図のものを元に分析した結果で、この実験では握力把握、中間把握、精密把握の特徴が反映され、握力把握では男女とも環指と中指、中間把握系の鉛筆では拇指・示指・中指で女性の方が高い値となり、精密把握では男女とも拇指と示指、中指に高い値が見られました。Figure 4 の iwakka を用いて一定把持力時での各指の役割についてもクラスター分析により 4 グループに分類できました。

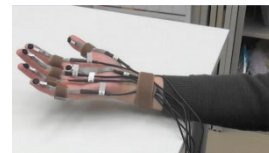


Figure.1 Subject setting



Figure.2 Subject writing

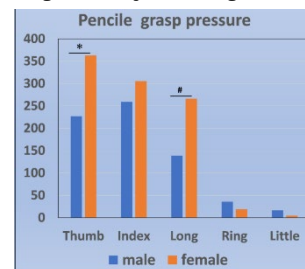


Figure.3 Male and female subjects' pressure average value in Pencil grasp

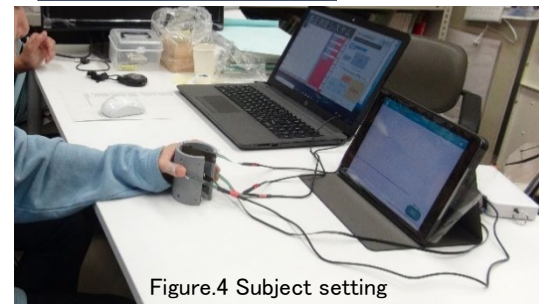


Figure.4 Subject setting

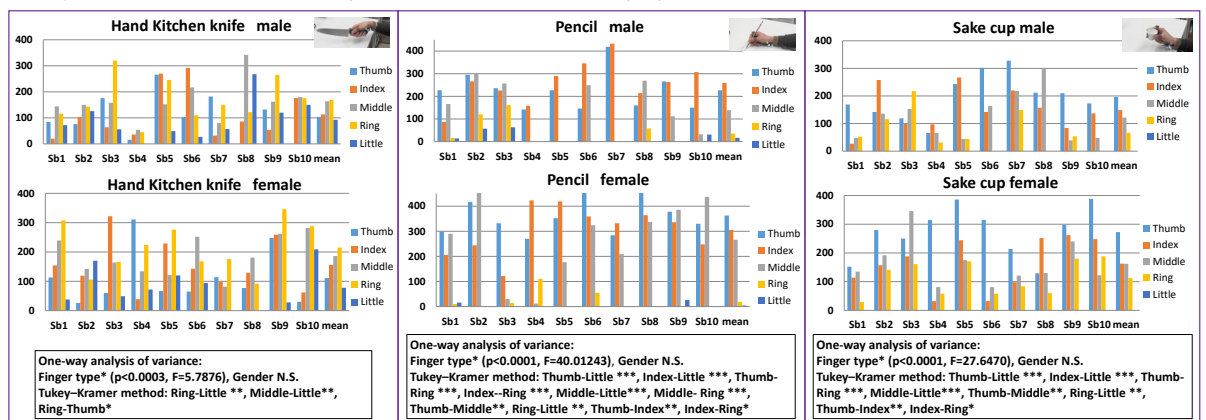


Figure.5 Each subjects' pressure sensor value and average value in male (top) and female (bottom) in each of Hand Kitchen knife (Left), Pencil (Middle), Sake cup (Right)

## 実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

作業療法でおこなわれる実践について、人間生活工学の観点から作業効率や快適性を追求することで、患者・利用者の方々に恩恵が得られること、実践する作業療法士がエビデンスを背景に自信を持って作業療法を提供できるよう取り組んでいくことのできる将来を目指していきます。

## 知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【論文】「セラプラストを対象とした硬さや付着性の物性に関する予備的研究」

【学会発表】「Investigation by grasping classification according to the opposing ratio of the thumb and 4 fingers」